

第3学年 道徳学習指導案

指導者 千葉市立山王小学校 川村 陽平

1 主題名「節度のある生活をしよう」[1－(1)]

2 資料名「少しだけなら」(出典 「小学校道徳 読み物資料集」文部科学省)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題で中心となる道徳的価値は、内容項目1－(1)の「よく考えて行動し、節度ある生活をす

る」である。
人が自分の欲望のままに行動してしまうと、自分や他者の社会生活に思わぬ障害や迷惑を及ぼしてしまうことになる。節度とは「適当な程合い」であり、節度ある生活をするとは欲望を理性によって抑え、度をこさないように生活することである。

この時期の子どもたちは、生活が活発になり、行動範囲も広がってくる。また、物事のけじめの大切さや、自制心の芽生えにも気付き始める。それと同時に、自己中心的な欲求も強くなり、「もっと〇〇をしたい」「少しぐらいなら〇〇でもいいだろう」と、利害や感情に簡単に押し流され、利己的な言動に走ることも多くなる。

そこで、よりよい社会生活や人間関係を営んでいくために、自己の言動についてよく考えたり、謙虚に振り返ったりすることを通して、慎み深く行動できる生活態度を身に付けさせていきたい。

(2) 子どもの実態

本学級のほとんどの子どもたちは、学校や学級のルールについて、ほとんどの子どもがそれを守ろうと意識して生活している。しかし、一部の子どもには自己中心的な言動をしてルールを守れないことがあったり、またどの子にも日常生活の中で自分の欲求や感情を抑えにくくなる場面（休み時間や放課後など）があったりする。その際には教師から指導を受けることもあるが、教師の言葉をきっかけに素直に自分の行為を振り返られるときと、欲求や感情のためなかなか振り返られないときがある。

より詳細を知るため、事前調査を行ったところ、以下のような結果が見られた。

事前調査結果

1、あなたは、「自分のやりたいこと」と、家や学校のきまりなど「守らなければならないこと」がぶつかったとき、どちらを選ぶことが多いですか。

ア、「守らなければならないこと」をいつも選ぶ…7人(23%)

イ、だいたい「守らなければならないこと」を選んでいる…17人(55%)

ウ、どちらも半分くらいずつ選んでいる…5人(16%)

エ、だいたい「自分のやりたいこと」を選んでいる…0人

オ、「自分のやりたいこと」をいつも選ぶ…2人(6%)

◇理由の記述で多かったものや特徴的だったもの

※ア・イを選んだ子どもたちから

- 家の人におこられる・人におこられるのがいや など…10人
- 守らないと罰（一週間外遊び禁止など）を受けるから など…3人
- ルールを守りたい・ルールは守った方がいい など…3人
- 危険なことになるから・大変なことになるから・なんとなく など

※ウを選んだ子どもたちから

- ときどき自分勝手になってしまうから など…2人
- ルールも守りたいけど、やりたいこともやりたい・めんどくさいときがあるから…2人

※エ・オを選んだ子どもたちから

- 遊びたい（遊びなど、自分のやりたいことを優先したい）から
- やりたくないことをやってもつまらないから

2、あなたは、これから「自分のやりたいこと」と「守らなければならないこと」がぶつかったとき、どうしていきたいですか。

ア、「守らなければならないこと」を選んでいく…14人（45%）

イ、よく考えて、そして「守らなければならないこと」を選んでいく…14人（45%）

ウ、よく考えて、そして「自分のやりたいこと」を選んでいく…1人（3%）

エ、「自分のやりたいこと」を選んでいく…2人（7%）

設問1より、8割近くの子どもが「自分のやりたいこと」という欲望よりも「守るべきこと」という理性を重視して生活していることが分かる。ただ、その理由として一番多かったのが「（親や教師に）怒られるから」という外発的な要因であり、本当の意味で自分の理性のみで欲望を抑えている子どもはまだ多くないこともうかがえる。また、2割程度の子どもはまだ自分の欲望を優先する傾向が強い。しかし、設問2では9割の子どもが「守るべきこと」を優先したいと考えており、前述の2割の子どもの中にも、将来は理性を優先していきたいという変化への願いがあることも分かる。

この学習を通して、欲望と理性がぶつかったときによく考えて行動しようとすることと、もしあやまちを犯してしまったときはそれを素直に振り返り、次に生かしていくことの大切さについて考え、より節度ある生活を送れるような心情を育てていきたい。

また、本資料は情報社会の基幹を成すインターネットを題材にしている。小学3年の子どもたちは、生まれた時からすでにインターネットや携帯電話が存在している世代である。本学級で事前に行った調査によると、自分の家に子どもが使えるパソコンがある人数が17名（55%）、自分用の携帯電話を持っているのが8名（26%）であった。この割合は、年代や学年が上がるにつれますます上昇していくことであろう。これからの情報化社会を生きていく上で、情報モラルについてもしっかりと身に着けて

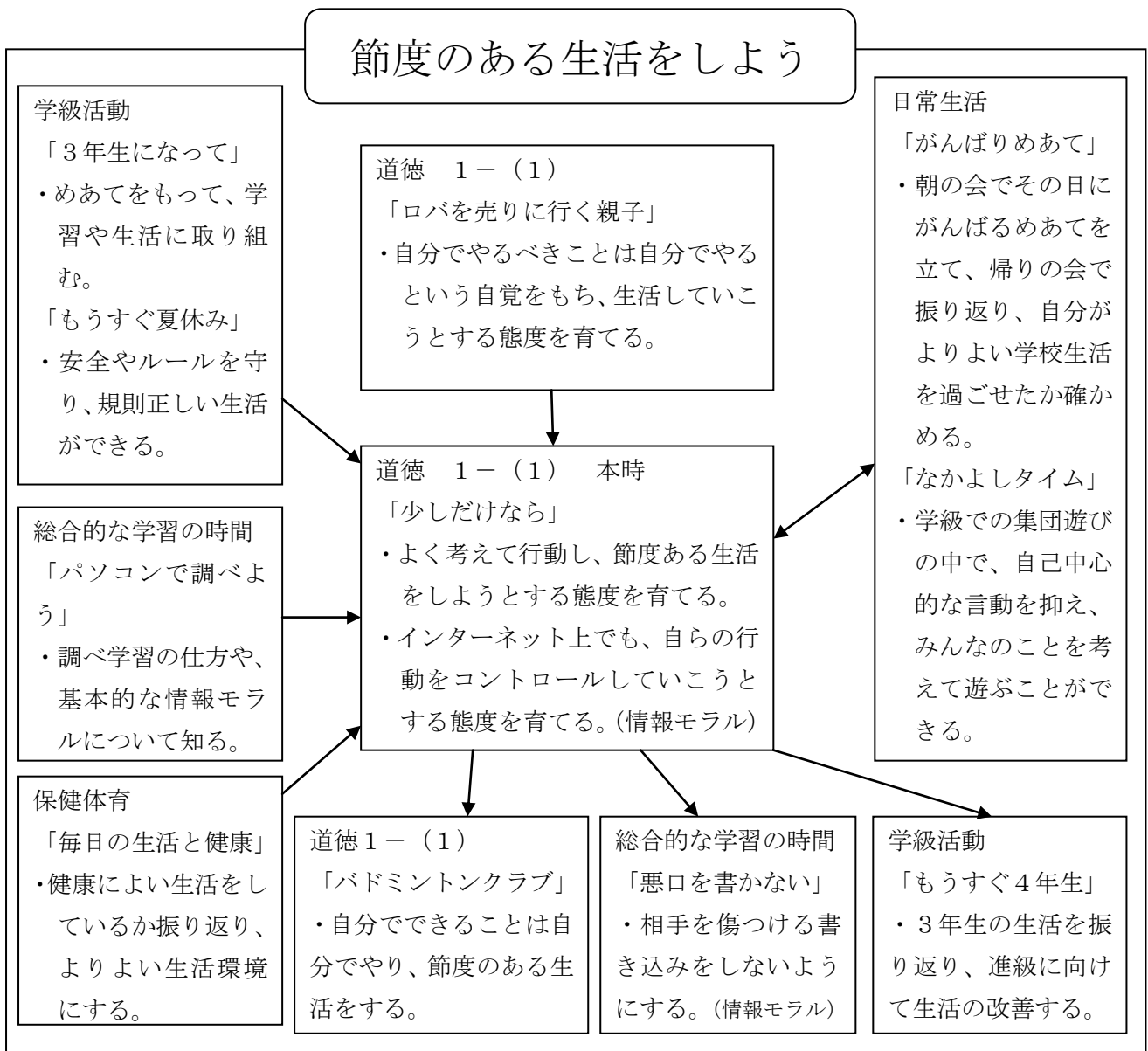
いかなければならない。そのための、自らの行動をコントロールしていこうとする態度を育てることに十分役立つ資料である。

(3) 資料について

資料「少しだけなら」の内容は、「家でインターネットを使っていた主人公の男子が、パソコンの中に興味深いサイトを見つける。母親との約束で一度は見るのをあきらめるが、『少しだけなら…』とサイトを見た上に、自分の住所なども入力しはじめる。そのとき、事前にセットしていたタイマーが鳴り、約束を破ってしまった自分を省みる」というものである。

誘惑に負け、約束を破ってしまった主人公の心の弱さについて、自分たちの日常でも十分起こり得ることとして、親近感をもちながら子どもたちも考えることができるであろう。そして、弱い心に打ち勝ち、節度ある生活をする事の大切さについて考えさせたい。

4 指導構想 (他の教育活動との関連)



5 研究の視点との関連

創造力を高めるための資料や指導の手立ての工夫

○少人数での聞き合い活動とワークシートの工夫

中心発問では、はじめに2～3人組程度の少人数で意見の聞き合いをする。その後、全体での話し合いを行うことで、普段あまり自分の考えを伝えられない児童にも伝え合う場を保障する。また、友達の考えを聞く機会が増えることで、その考えももとにして、主人公のあつしの気持ちをより深く考えていくことができる。

また、話し合いの前に自分の考えをしっかりと持ったり、自己の生活について振り返り自分自身のことを考えたりするために、ワークシートに書く活動を取り入れる。

実践力を高めるための資料活用の工夫

○情報モラルや他教科との関連による実践力の育成

本資料は情報モラルについても考えることができる資料である。パソコンや携帯電話など、今後自分ひとりで情報端末を扱うことも多くなっていく。そういった中で通常の生活と同様、あるいはそれ以上に「どうすればいいのか」という判断を迫られることになる。その具体的場面として本資料の内容を学習することで、より自分で考え、節度をもって自分の心をコントロールしていくことにつながると考える。

また、本時の前に総合的な学習の時間でパソコンでの調べ学習での基本的なルールを知り、さらに本時の後にインターネット上でのマナーについて考える学習を行う。これにより、節度ある生活をするという態度と情報モラルの両方を関連付け、学習効果をより高めていきたい。

6 本時の指導

(1) ねらい

日常生活のいろいろな場面でよく考えて行動し、節度ある生活をしようとする態度を育てる。

	学習活動	主な発問と予想される子どもの反応	・教師の指導の手立てや留意点
導 入	1. インターネットを使った経験について発表する。 2. 資料「少	○どんなことでインターネットを使ったことがありますか。 ・知りたいことを調べるとき。 ・動画を見たりするとき。 ○お母さんと約束したあつしは、どん	・経験を話し合う中で、総合的な学習で行ったインターネットをする際のきまりについても触れる。特に「個人情報伝えるときは、大人の家族と一緒に」ということを確認しておき、展開でのあつしの葛藤の理由をより理解しやすくする。 ・あつしが「自分は大丈夫」と思

展 開 前 段	<p>しだけなら」の話を 読み、話し 合う。</p>	<p>なことを考えたでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大丈夫だよ。 ・心配いらないよ。 <p>○割引券が気になって仕方がないあ つしは、どんなことを考えていたで しょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少しぐらいなら平気だろう。 ・みんなだっやってるよ。 	<p>っていることに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「少しだけなら…」と誘惑に乗っ てしまったあつしの心の動きを 感じ取れるようにする。
展 開 後 段	<p>3. 自分の生 活について 振り返り、 自分の行動 について考 える。</p>	<p>○タイマーを止め、じっと画面を見つ めるあつしは、どんなことを考えて いたでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんとの約束、破ってしまった な。 ・やらなきゃよかったな。 <p>◎下を向いてぼつりと答えたあつし は、どんなことを考えたでしょう か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベルのおかげで止められたけど、一 度はきまりを破ってしまったんだ。 ・本当はえらくなんかないんだ。 ・今日はちゃんとできなかったから、 次はきちんとするよ。 <p>○今まで「少しだけなら…」と迷った けれど、我慢してやめたことはあり ますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の持っているカードで、どうし ても欲しいものがあつたけど、カー ドの交換は禁止されているからや めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイマーの音をきっかけに入力 を止め、自分の行為について反 省しているあつしの気持ちを考 えさせる。 ・はじめは少人数での聞き合いを し、それから全体への話し合い につなげることで、より多くの 考えを聞きながら自分自身の考 えも深めていくようにする。 ・後悔の気持ちだけでなく、これ から気を付けていこうとする気 持ちも考えさせる。
終 末	<p>4. 教師の説 話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の体験談を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことについてじっくりと 考えられるように、ワークシー トを活用する。 ・行為とともに、そのときの気持 ちも思い出して考えさせるよう にする。 ・誘惑に負けそうになっても思い とどまってよかった体験を伝え る。

『少しだけなら』

3年 組 名前 ()

1. 下をむいてぼつりと答えたあつしは、どんなことを考えたでしょうか。

うん・・・。

☆インタビューはじめのことば

「あつしさん、下をむいてぼつりと『うん・・・。』と
いったとき、どんな気もちでしたか？」



2. 自分をふりかえってみよう

